

友達や地域の人・もの・こととの関わりを契機に、主体的に探究する子供の育成

1 はじめに

○ 実践の目的

- ・ 福光の特色ある地域活動、施設、特産品等について見学や体験活動等を通して調べ、ふるさとを愛し誇りに思う心を育てる。
- ・ 地域の方と交流したり地域の課題等について調べたりする活動を通して、自分や自分たちにできること、よりよい地域づくりについて考え、進んで取り組もうとする心情を育てる。

2 活動の実際

○ 第1学年 生活科「あさがおをそだてよう」

校区に「新町あさがお街道」と呼ばれる場所があり、そこでは、昭和61年から「あさがおまつり」を実施している。ここで活躍しておられる「南砺あさがお会」の方を講師にお招きしてあさがおの栽培指導をしていただいた。

種まき前の5月には、あさがおの歴史や種のまき方、7月には、あさがおのつるの処理の仕方やあさがおの押し花の作り方について実演を交えたり、紙芝居を使ったりして指導していただいた。

自分の子供を育てるように大切にあさがおの世話をしておられる地域の方の姿から、子供たちは、「自分も優しく育てて、たくさん花をさかせたい」「きれいな大きな花を咲かせてほしいな。水を忘れないであげよう」などとあさがおに心を寄せ、小さな変化に一喜一憂しながら進んで世話をしていた。講師の方々をあさがおに対する真剣な姿を目の当たりにしたことで、今年は猛暑で植物の管理が大変だったにもかかわらず夏休み中も枯らすことなく家で世話を続けることができた。また、家庭であさがおの押し花に挑戦した子供もたくさんいた。

○ 第2学年 生活科「野菜を育てよう」

生活科の学習では、それぞれが自分の育てたい野菜を一人一鉢育てた。「ピーマンを作って、家族に料理を作ってあげたい」「おばあちゃんの大好きなキュウリを育てて、食べさせたい」などの願いをもち、一人一人が家族と相談して苗を準備した。子供たちの要望に応じ、苗を植えるとき、そして、野菜の生長に心配事や分からないことが出てきたときの2回、地元のJAの方に「野菜の先



【紙芝居を見る子供たち】



【つるの処理の指導を受ける子供たち】



【JAの方と苗植えをする子供】

生」としてお越しいただき、指導していただいた。

JAの方の「根がよく伸びるように土をふわふわに柔らかくする」「栄養があちこちにいかないようにわき芽をとる」などの説明に、家族や近所の方の野菜の栽培の様子を見たり聞いたりしてなんとなく知っているつもりでいる世話の方法について、その意味を理解し、納得して活動することができた。子供たちの必要感に応じて専門家に教えていただくという機会を設けることで、長期にわたる栽培活動であったが、各自の願いの達成のために、家から支柱や肥料をもってきたり、図鑑で野菜の病気について調べたりなど、主体的に活動を続けることができた。

○ 第3学年 総合的な学習の時間「『道の駅福光』のひみつをさぐろう」



【学習発表会でのステージ発表】

令和3年に県内で1位の客数を誇る道の駅が校区にあることを学習材にし、「道の駅に人がたくさん来る秘密をさぐる」ことを課題として学習を進めた。

何回も現地に足を運んで見学したりインタビューしたり、写真撮影したりして情報を集め、「これが秘密」と見付けたことをカテゴリ別のグループで寸劇、クイズ、プレゼンテーションにまとめた。それを学年内で紹介し合った後、学習発表会でも紹介した。

発表の対象と場を変えて、複数回発表の場を設けたことで、子供たちが

正確で詳しく調べ活動を行おうと意識しただけでなく、道の駅への愛着を深めることにつながった。

単元の中盤で、客数が令和4年には県内で2位になってしまったという教師からの情報に、「客数を回復したい」「自分たちができることはないか」という思いを抱いた。そこで、道の駅の職員の方の願いを聞き、道の駅で扱っている商品のよさを伝えるマスコットキャラクターを工夫してつくり、道の駅に展示する活動へと広がっていった。キャラクターのネーミングや特色に一人一人の調べ活動の成果が込められた個性あふれる作品に仕上がった。



【道の駅の見学】

また、教科の学習と関連させ、川柳やムシコンテスト、巨大紙風船コンテストの募集等の道の駅のイベントに参加し、道の駅とのかかわりを深めた。

今後は、この学習を通して学んだことを「提言」として南砺市長さん、道の駅の方々に発表する予定でいる。

○ 第4学年 総合的な学習の時間「ふくみつ環境調査隊」

海洋汚染の動画をきっかけに自分たちの住む福光の環境に目を向けた子供たちは地域のごみの状況の調査を行った。調査した結果を写真とともに地図上にまとめ、自分たちの地域の環境に危機感をもった子供たちは、各自が「環境を整えたい」と考える箇所ごとにグループを作って清掃活動を計画し、実践を重ねた。地域の方から感謝の言葉をかけられたグループもあり、地域に役立っていることを感じることもできた。



【地域での清掃活動】



【市役所の方の話】



【メッセージの掲示～学習発表会～】

また、市のエコビレッジ課の方を招き「海のない南砺市から海岸漂着ごみを減らそう」と題してお話をいただいた。子供たちは、自分たちの活動は福光地域からごみを減らすことになるだけでなく、漂着ごみを減らすことにもつながることを理解し、価値ある活動であることに自信をもつことができた。この活動を経て考えたことを学習発表会に訪れた方へのメッセージの形として掲示発表した。さらに活動を広げていく必要性を感じ、広く働きかける方策について話し合っている。

○ 第5学年 総合的な学習の時間「ともに生きる 福光地域の福祉について考えよう」
「かしこく生きよう情報社会」

1学期には南砺市社会福祉協議会の方を講師として福祉とはどういうことか、南砺市の福祉について等を学んだ。講師のお一人は、車いす生活者でもあり、障がいのある人、高齢者、子供、外国の人にとってどのようなお手伝いをしていくことが幸せに生活できることにつながるのかを考えるきっかけを得た。



【社会福祉協議会の方の話】

この機会をきっかけに、福祉について各自が気になったテーマについて調べ学習をし、まとめたことを学習参観日に保護者に発表した。意見交換する中で、子供たちは、みんなが幸せに生活するために、自分にできることを考え、それを実践していこうとする意欲を高めた。

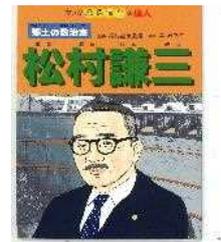
2学期は「かしこく生きよう情報社会」をテーマとして、PTAの方を講師としてプログラミングについて学んだ。講師の先生の話をお聴いたりプログラミングの実際を体験したりしたことで、プログラミングが自分の身近な生活とどのように関連しているのかが分かっただけでなく、1学期の学習と関連させて福祉の分野でもこの技術が生かせそうだと考えを発展させる子供もいた。車いす生活者の方の思いを直接伺い、地域の福祉を自分の課題として捉えていたからこそ、プログラミングの体験と結び付いたと考える。



【プログラミング体験】

○ 第6学年 総合的な学習の時間「ふるさとの偉人『けんそはん』から学ぼう」
道徳科「刀利ダム～謙三の夢物語～」

今年度、南砺市教育委員会と松村記念館から、「まんが ふるさとの偉人 郷土の政治家 松村謙三」の漫画本が発行、配布された。松村謙三さんの生家が校区にあり、子供たちは、3年時の総合的な学習、4年時の社会科で「松村謙三」の功績について学習していた。しかし、具体的な功績の内容や人柄については、なんとなく知っているというのが実情であった。そこで、漫画本を読み、道徳科で松村さんの生き方について考えたり、松村記念館に行き、職員の方から松村さんの幼少時のエピソードや松村さんのお孫さんの話を伺ったりする機会を設けた。これらの活動を通して、子供たちは、松村さんの歴史上の功績を知っただけでなく、松村さんの誠実な人柄、郷土の人への愛情、ふるさとを大切にすることを感じたり、自分と重ねて考え、「なりたい自分」に向けて努力することを意識したりするようになった。さらに、自分たちが学んだこと、感じたことを伝えるために劇にまとめ、下級生や松村記念館の職員の方々、漫画本の漫画を描かれた作者を招いて発表会を行った。発表会では、地域にすばらしい偉人がいたことを誇りに思うと同時に今後の自分について考えていく決意を表現していた。



【配布された漫画本】



【関係者をお招きした劇の発表】

○ 特別支援学級 「お店を開いてやりとりをしよう」



【学習参観での販売体験】

自・情級、知障級の4つの特別支援学級合同で自立活動や生活単元学習の時間に夏野菜、秋野菜の栽培活動を行った。校区内の種苗店に行き自分の買いたい夏野菜の苗をお金を出して買ったり、収穫した秋野菜を参観日に店を開いて保護者の方へ買っていただいたりした。

人とのやり取りが必要な場面を意図的に設けたことで子供たちの対人スキルの向上に役立った。また、本物のお金をやり取りする場が子供たちの意欲やライフスキルを高めることにつながった。

3 おわりに

数多くの地域の方々の協力と学校教育に対する期待の下、子供たちは発達段階に応じて自分ができることを見付け、実践しようとする姿が見られた。お越しいただく地域の方から学習の内容を学ぶだけでなく、その生き方や熱い思いに触れ、心を動かす場面が多々あった。それが、次の主体的な活動を促すことにもなった。また、体験的な学習を繰り返すことで地域に愛着をもったり、地域の一員としての自覚が高まったりする姿を見ることができた。そのことを発表する場を設けることで、学習材と自分との関係について立ち止まって考える機会にもなった。

今後も地域に学習材を求めその価値を教材研究すること、地域の方と連携・協力して支援する方法を探っていきたい。